

# わかたけ



やまも恒例の餅つき ⇒ 完成



2023.12.27



ゆり工房 絵馬

## 新春のお慶びを 申し上げます



にじ 書初め



五福龍

宰府園 干支の置物



宰府園 おせち料理



すみれ園 干支の絵付け



ゆり工房 干支の壁面飾り



すみれ園 書初め



さいふ 成人式



にじ 福笑い

目次	
2ページ	年始のご挨拶 / 3・4・5ページ 宰府福祉会の生活介護
6ページ	コミュニティインフォメーション (地域情報)



# 年 始 の ご 挨拶



## ～ 『いつでも気軽に利用できる福祉サービス』を目指す ～

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

このたびの能登半島地震及び飛行機事故等で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。1日も早く日常を取り戻せるようお祈りいたします。

現在、法人45周年の2022年4月から、第三次中期経営計画への取り組みが始まり、「地域貢献事業の推進」「財務体質の強化」「サービスの標準化」「内部管理体制の充実」「総合的な人材マネジメントの充実」の5つを経営の基本方針として、目標達成に向け法人全体で取り組んでいます。

さらに、「宰府福祉会地域生活支援センター」の整備により、障がい児者等へのサービスの充実を図っているが、現在、建築材料や工事費の高騰により計画の見直しをしているところです。

法人の各施設においては、地域住民や自治会との連携・協力を強めて、利用児者の施設の生活支援や活動支援の充実を図っています。

そして、多様化、複雑化する地域生活課題を把握検討して、法人の地域貢献事業の実施につなげていくことにしています。

また、法人本部を中心に内部管理体制の構築を図るため、サービスの標準化と業務の体系化・標準化を進めて、サービスの向上と人材育成の充実に努めています。

何よりも、各拠点の運営業務管理を担う施設長・管理者のマネジメント能力の向上が課題となっています。

法人本部と拠点施設の管理体制、サービス現場の支援体制、それぞれの機能と役割に応じて協力連携し課題解決に取り組んでいます。

今後も、宰府福祉会として、筑紫圏域内において、各拠点の事業のサービスを充実させ、地域生活支援センターの整備を進めていきます。

そして、法人コンセプトの『いつでも気軽に利用できる福祉サービス』を目指し、障害児者の入所セーフネット支援・地域生活バックアップ支援・地域拠点の、機能役割を果たせるように努めていきます。

どうぞ、今年も、皆様のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

令和6年1月  
社会福祉法人 宰府福祉会  
理事長 草本 武俊

## ～ 本部機能の明確化と財務基盤の強化に努力 ～

日頃より、当法人の事業経営につきまして、温かいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年中は、コロナ禍明け後の景気の緩やかな回復の中、諸物価高騰や人材不足の中での賃金格差等の改善、長期化する感染症への対応など、事業経営にとって多くの解決すべき課題への対応があり、特に人件費の原資の確保と給与規程等の調整改定や人材確保、採用・育成・定着に取り組んで参りました。

財務に関しては、コスト削減と各事業の収支の財務上のチェックを行い、安定した経営と将来の設備資金の確保に努めてきました。

さらには、本部機能強化のため、法人運営・会計経理業務の標準化を図るため、業務基準書の作成に取り組んでいるところです。業務の効率化を図り、生産性を高め、誰もが同じように業務ができるように、ナレッジを共有することで属人化をなくして業務の最適化を行ない、将来に向けて人材を確保することを目指しています。

今年も安定した事業経営と質の高い利用者サービスの提供を目標に本部機能を充実させて、法人事業の推進及び各拠点の事業推進にも努めて、利用者の個々のニーズに応じたサービスの質の確保と向上に対応できるよう、本年も職員一丸となって取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年1月  
本部長 深町 美代子



前号の就労支援特集に続き、本号では宰府福祉会の生活介護支援についてご紹介をします。

福岡県のホームページによると令和5年12月現在、県内には約540か所の生活介護事業所があり、当法人でも100名以上の利用者が法人内各施設の生活介護事業を利用しています。

「生活介護」という言葉の通り、この事業は利用者の生活を支える非常に重要な役割を担っています。多くの生活介護事業所の中から選ばれ、安心して利用していただける施設となるよう各事業所、個性的な取組や工夫をしてがんばっています。今回は、各施設の生活介護事業の活動をご紹介します。

やまもも施設長 岡田

## やまもも



やまももの生活介護は平成30年度からより個別に合わせた充実感のある生活を送っていただくためにAグループとBグループに分かれて活動を行っています。現在は24名の方が在籍されています。

Aグループでは、下請け作業（マットの消毒、チラシのサンプル貼り付け等）や干支製作を中心としながら散歩（週2回）、カラオケやゲーム等の少人数での余暇活動（週1回程度）、文字書きや時計の読み方、外出先でのルール等の日常生活に沿った内容の学習活動の時間を設定して行っています。

Bグループでは、生産活動（ハガキ作り、ビーズ製品等）や下請け作業も行いながら、利用者の状況に合わせてドライブやDVD鑑賞、散歩、個別活動等の満足感のある活動を行っています。地域のイベントに向くこともあります。



やまもも全体での行事（クリスマス会）



チラシサンプル  
貼り付け（作業）



クッキング



アクティビティ活動（ピアノ）



製品作り（作業）

A、Bグループに分かれたことで以前よりも個別のニーズに応じた活動を実施することができる反面、活動場所が分かれているため、いつも同じ利用者や職員との関わりばかりになってしまいがちです。そこで、やまもも全体で行っているバイキングやスポーツ、年間行事ではいつもとは違う利用者と職員でグループを組むこともあります。その際、職員は利用者との会話を大切にしており、皆さんにとっての“安心できる職員”が少しずつ増えているように感じます。また、一緒に活動する機会が少ない利用者同士の日常的な会話も増え、相互理解も深めることができました。特に活動や行事の際は利用者同士がお互いに助け合っている姿も多く見られました。

今後も職員と各利用者との関わりを大切にしながら一人ひとりの理解と信頼関係、主体性を深めていきたいと思っています。

（やまもも支援員 唐島）



## 宰 府 園

### ● 木工作業班

木工は宰府園開設当初から続いている部門で、熟練した職員のもと、現在、利用者14名で作業を行っています。主に木工玩具の制作を行っており、一つひとつ丁寧に磨き上げられた製品は木と人のぬくもりを感じさせ、子供さんやお孫さんへのプレゼントなどとして皆さんからとても喜ばれています。特にふるさと納税の返礼品として出品している「おもちゃ箱」や縁起物である「干支の置物」は毎年多くの方から好評を博しています。

製品は当法人のホームページでご覧いただくことができます。また、施設内をはじめ、地域の商業施設やお祭りなどのイベントでも販売していますので、町で見かけたらずひ手に取ってご覧いただけると嬉しいです。

(宰府園サービス管理責任者 阪井)



磨き作業は生きがいです



心を込めて一生懸命磨いています

### ● リサイクル班

リサイクル班は利用者16名で活動をしています。

各地でSDGsの取り組みが広がる中、宰府園としても、壁紙カタログの台紙からサンプルを剥がす作業を中心にペットボトルのリサイクル活動を行っています。

台紙は回収業者を通じて再資源化されます。ペットボトルのキャップは法人内の「障害者生活支援センターにじ」が長年続けているボトルキャップを通じた活動と一緒に参加させてもらうことで、交流と社会貢献に取り組んでいます。

その他、体を動かす活動として週に一度「ポッチャ」をしています。ポッチャをすると仲間意識も高まります。メンバー同士、絆を深めながら活動に取り組んでいます。

(宰府園支援員 澤田)



細かい作業は得意です



集中して丁寧に剥がします



### ● 創作班

創作班では、利用者12名が食堂に集まって、自分のしたい活動(塗り絵、脳トレ、編み物等)を行ったり、壁面制作に励んだり、時にはみんなでお茶会をしたりして、皆さんの「したい、やりたい」と思う気持ちを大切に、活動に取り組んでいます。

傾聴ボランティア「ロバの耳」さんとは話すことを楽しみにし、運動ボランティア「スマイルケア」さんとは運動を通じて交流しています。また、近くの自治会の皆様に「壁面飾り」をプレゼントすることもあり、地域の皆さんのおかげで以前に増して笑顔が増えました。これからも様々な活動を通じ、笑顔あふれる創作班を続けていきたいです。

(宰府園支援員 間)



運動ボラ：みんなで輪になって体操中！



傾聴ボラ：ロバの耳さんと楽しいお茶会



お花紙貼っています



⇒ 七夕の壁面完成

## さいふ

さいふの生活介護は1日約14名で活動を行っています。踏み台昇降・ペダルこぎの「運動大会」、皆で好きな歌をスクリーンで楽しむ「歌って踊ろう」・プラネタリウムを見てゆっくり過ごす「リラクゼーション」・「手浴足浴」を週のプログラムの軸にして、創作や季節に合った活動を行っています。固定したプログラムのため、利用者は見通しを持ち、楽しい雰囲気の中、落ち着いて過ごすことができます。新作業棟での生活にも慣れたので、今後は新たな活動を取り入れていながら、活動の幅を広げ、利用者の社会性向上につなげていきたいと考えています。

(さいふ支援員 立石)



カフェタイム



年賀状のスタンプ押し



カブの収穫



## ゆり工房

ゆり工房の「生活介護」は、昨年11月に作業場所と担当職員が変わり、心機一転、新たな活動にも取り組んでいます。午前には「生産活動」で木工の磨き作業やビーズマスコット作り、午後からは「創作的活動」で音楽を楽しんだり、絵を描いたり、数や文字の練習をしたり、時には、散歩や卓球、園芸など色々なプログラムを取り入れ活動しています。

利用者の皆さんは体を動かす機会が少なく、運動不足になりがちです。そのため運動不足解消と体力維持や体重増加等に留意した健康づくりにも取り組んでいます。これからも無理のないよう楽しく継続して運動ができるように工夫していきたいと思ひます。

(ゆり工房支援員 野田)



書初め



調理実習でスイートポテト作り♪



健康づくり活動



創作活動で今年の干支の辰を製作しました

## にじ

にじでは、介護や介助等の支援が必要な利用者の方が、安全に安心して過ごせるよう、食事・排泄・入浴(登録制)、送迎等の支援を含めた日中活動支援を行っています。

園芸活動では、四季折々の季節を感じながら、花や野菜を育てる活動を行っています。一番の楽しみは収穫ですが、土づくり・草取り・水やり等にも、ボランティアさんの協力を得ながら、みんなで取り組んでいます。

社会貢献活動の一環として、イオングループのペットボトルキャップを集めてワクチンにする活動に参加しています。キャップの回収・洗浄・整理等、それぞれ役割に取り組んでもらいながら、毎月の納入を行っています。最近では、宰府園入所者の皆さんがキャップを集めて持ってきてくれたり、ゆり工房、やまももの利用者の方も協力してくれています。また、地域の為に少しでもできることをということで、資源ごみを公民館に持っていく活動を始めました。



小倉公民館へ資源ゴミ出し



大きな玉ねぎとれましたよー♪



運動楽しい!!

体力や身体的な機能を維持するため、軽運動(エアロバイクやトランポリン、振動マシン等)や散歩にも取り組んでいます。その他、季節に合わせた創作、ドライブ、調理体験、日帰り旅行等の活動を利用者の皆さんに楽しんでいただけるよう実施しています。

全体のスケジュールをゆったりと設定し、利用者の皆さんが無理なく活動に参加できるようにその日のご本人の調子や体調等に配慮した活動支援を心掛けています。

(にじ支援員 佐藤)



## 「南畑美術散歩」とともに



添田 英一  
宰府福祉会理事  
南畑ぼうぶら会議初期メンバー  
那珂川市シルバー人材センター  
理事長 など多方面で活躍

みなさんは「南畑美術散歩」(那珂川市)をご存知ですか？

アートとクラフト(手作り・創作)を楽しめる催しで、最近では、福岡都市圏からも多くの方が訪れる『那珂川 秋の風物詩』です。昨年11月19日(日)に、今年で10回目を迎える「南畑美術散歩」が開催されました。



南畑美術散歩 案内



魅力的な工房の数々  
体験もできます



南畑ぼうぶら会議 初期7人衆  
(「南畑の本」より抜粋)



開始当初、「やまもも」も中ノ島公園で販売参加していました。今年は、送迎車両の提供で協力させて頂き、「やまもも」の利用者が作った作品は南畑小学校に展示して頂きました。「やまももとは開所当時からのおつきあい。障がいがあるとかないとか、開所の時から住民の反対なんてなかったですよ。交流を通じ、お互いができることで協力できたらそれでいい。その思いは今も変わりません。」「やまもも」は、公園やカフェ、学校と同じく南畑の大切な社会資源のひとつとなっていることを感じます。

今ではすっかり定着したイベントですが「開催当初は慣れないスマホを使ってフェイスブックなんかで発信に力を入れました」と添田さん。『南畑ぼうぶら会議』は会社組織となり、地域雇用にも貢献しており、移住をバックアップする不動産業もしているそうです。今は、代替わりして、山間の買物サポートのため車で巡回するサービスもスタート。かつて行われていた「南畑まつり」も復活し、若い世代のメンバーが中心になって運営しているとも。

10年前79名だった南畑小学校の児童は現在110名を数え、『ぼうぶら会議』の目標は見事達成されました。添田さんに、今後について伺いました。「正直、これからのことはわからない。けれど、昔も今も変わらない『隣組的』横のつながりを大切にしながら、楽しく生活できるところでありたい。」

「地域活性化」よく聞く言葉ですが実現には時間も要し、道のりは大変です。しかし、私が、今回の取材で感じたのは、地域への思いとチーム力そして、自然の魅力。その魅力を誰よりも地域の住民が感じていることで、中から湧いてくるように「活性化」が実現されていったという、実に『自然な地域活性化』のストーリーでした。来年もまた「南畑美術散歩」します！



やまもも作品展示 (南畑小学校)

そもそも「南畑美術散歩」が始まったのは、南畑地区(当時7区、現在6区)の小学生が減少しており、「このままでは学校も統廃合され南畑地区は元気がなくなってしまう」と危機感を抱いたことがきっかけ。立ち上がったのは、その名も『南畑ぼうぶら会議』(南畑地域活性化協議会)の七人衆(=区長)でした。「地域の活性化には何が必要なんだ?」「どうしたらいいんだろう?」と集まった会議でしたが、ふと南畑を見渡すと、発足当時、すでに様々な地域から移住してきたアーティスト=芸術家がざっと30名以上いました。「芸術と自然の融合!南畑の魅力も発信できる」と確信。七人衆は幼いころからの顔見知り、幼馴染ということもあって「集まれば知恵を出し合い全員一致で決まった」とのこと。当時、行政主導で開催されていた「中山間まつり」とタイアップしてスタートしたのが「南畑美術散歩」でした。中ノ島公園や小学校、工房などを活用し、染色やオーナメントづくりなどの体験のほか、茶屋、カフェなど食も楽しみ、ノンビリした牧歌的風景を存分に堪能しながらと自然を満喫できます。「那珂川交響楽団」のサプライズ演奏は今も継続、自然の中で聞く音色は開放的と大好評。乗客をたくさん乗せた「トゥクトゥク」も南畑の景色に溶け込んでいます。